

# 『風は南から』

令和7年度 校長室便り  
(6月25日)(第6号)



## 文化祭 大成功！

6月21日(土)多くの観客をお迎えして令和7年度文化祭を実施しました。体育祭に引き続き、希望者による文化祭実行委員会を立ち上げ、企画から運営に至るまで、生徒による文化祭でした。



3年生による創作劇の発表と文化系の部活動のステージ発表は例年通りでしたが、クラスと課題研究(授業)による食物バザーや有志団体(バンドや琉球舞踊の演舞)のステージ発表も増えて、見どころ満載の文化祭となりました。

事前に実行委員会のメンバーがポスターを作り、島内のいろいろな場所に張ってもらうように頼んで回った成果もあり、例年よりも観客が多かった気がします。食物バザーで昼食を取れていない生徒のことを考慮して、急遽30分午後の部を遅らせてスタートしましたが、最後まで観客数は変わらなかった気がします。

私がいつも感心するのは、片づけ作業です。体育祭の時もそうでしたが、疲れているにもかかわらず、献身的に黙々と作業する生徒の姿を見て、本当に素晴らしい学校だと思いました。「沖高最高！」です。

## インターハイ出場 おめでとう！

男子砲丸投げて南九州大会に出場した福龍太郎(3-1)さんが、出場者の中で一人だけ14Mを超える記録を2回も出し、見事優勝し、インターハイへの出場権を獲得しました。県大会では悔しい思いをし、それを乗り越えて掴んだインターハイ出場です。見事な有言実行です。さらに探究し、本番では自分の限界を超えて記録更新されることを期待しています。

## 「令和7年度 校内弁論大会」

6月20日(金)昨年度に引き続き、文化祭前日に「令和7年度校内弁論大会」を実施しました。1・2年の各クラスから選出された5名の弁士が発表しましたが、どの弁論も甲乙付けがたく、自分の実体験を踏まえた素晴らしい内容で、毎年レベルが上がっていることが分かりました。以下が今年の発表者と演題になります。

学年	氏名	演題
1年	川上さん	大切な人の存在
1年	田邊さん	夢と現実
2年	伊井さん	帆を張れば道は拓く
2年	市来さん	森へ逃げよう
2年	上村さん	普通とは何か・再定義

5名の発表の後、すぐに審査発表があり、優秀賞が市来さんと上村さん、そして最優秀賞が、伊井さんに決定しました。伊井さんの弁論は、自分の課題や環境をミュージカルに参加したり仲間を支えられたりすることで克服し、それが将来の夢につながったという力強く素晴らしい内容でした。

最後に、本年度県代表として「かがわ総文祭2025 弁論の部」に出場する福山玄太さんの模範弁論がありました。今年も高校生の瑞々しい感性が伝わる素晴らしい弁論大会になりました。

## 「陸上競技部・ボクシング部」壮行会



6月10日(火)南九州大会に出場する陸上競技部2名と、九州大会に出場するボクシング部3名の表彰式と壮行会を行いました。

陸上競技部は、次の大会で入賞すれば、インターハイへの切符を獲得することになります。2名は、その意気込みとこれまで応援してくださった方々への感謝の思いを語り、ボクシング部3名も、指導して下さる先生方やコーチへの感謝

の思いと「チーム鹿児島」として出場することへの抱負等を語りました。その後、生徒を代表して花輪副会長が激励の言葉を述べました。

沖永良部島出身で、南京都学園高校(現在の京都廣学館高校)でボクシング部のコーチをされ、ロンドンオリンピック金メダリストの村田諒太選手や元WBC世界バンタム級王者の山中慎介選手等を育てた武元前川さんという方がいます。

武元さんは、いつも選手に「試合では前に出る、勝っても相手の前でガッツポーズをするな」など、苦しくても立ち向かうことと、礼を重んじることを強調されていたそうです。沖永良部島で培われてきた精神は、京都に渡り、今でも大切にされているそうです。その精神は、校訓にもあるように、皆さんにも受け継がれています。不安になることもあるとは思いますが、そんな時こそ前に出て、相手への敬意を忘れず、ベストを尽くしてきてください。健闘を祈っています。

## 知名町区長会より激励費の寄贈

6月11日(水)南九州大会に出場する陸上競技部と九州大会に出場するボクシング部のそれぞれに、飛行機で移動の際に乗り合わせた「知名町区長会」の皆様から、「激励費」をいただいたと、引率の上村先生から連絡がありました。思わぬサプライズに、選手たちも俄然やる気が出たということでした。両部に限らず、皆さんの活動を地域の方々がいつも応援してくれています。その恩を忘れず、何らかの形で返ししたいと思います。

## 「生物基礎」で探究学習

先日、物理の有留先生から授業を見に来ませんかという誘いを受けて、2年生普通科と商業科の「生物基礎」の授業を見学させていただきました。教科書の内容から自分が疑問に思ったことを調べて、グループ内でタブレットを使ってお互いに発表し評価するという取組をしていました。中には、ポケモンのキャラクターを使って別な例として具体的に分かりやすく説明している発表もあり、驚きました。またそれぞれの発表をグループフォームを使って、沖高の身につけるべき6つの力で評価していることも良い取組だと感じました。「前もってアウトプットの機会があると分かれば、インプットのやり方が異なってくる」と聞いたことがありますが、まさにその通りだと思いました。

